

読売新聞くらし欄

で紹介!

(1/18)

著者
伊藤勝彦

親子終活

モメない相続で
お金も心も
すっきり!

整理が難しい
デジタル資産も安心

本音の
話し合いで/
家族の
つながりを
深める!

∞あさ出版

親と子どもが協力して
財産整理と
遺言書の作成
がスラスラ進む

33 くらし 12版 2026年(令和8年)1月18日

日曜の朝に

「80代になったから何があってもおかしくないよ」
昨年暮れ、近県にある実家に帰省した際、20年ほど一人暮らしをする父から言われて、びきっとした。
父は病気らしい病氣もせず、介護も必要なかった。年には何回か帰省して、何となく様子は見ていたが、記者も50代になり、介護も含めて色々なことを考えなくてはと思いつつ、真剣に話したことではなかった。

寡黙で子どもに干渉しないタイプだった父と話らしい話をしたことがない。比較的はよくなつたのは父が定年退職し私が結婚して娘が生まれてからだ。

医療介護情報サービス会社「エス・エム・エス」(東京)が昨年10月、60歳以上の親を持つ男女約1000人に実施した調査では、終活について親と話したことのない人の割合は6割を超える。理由は「切り出しが多い、話しにくい」が一番多い。自分と同じような状況なのではないか。
父と決めておいたほうがいいことは多い。介護が必要になった時、通つて介護するのか、施設に入所するのか。葬儀の形式は。家や残されたモノはどこまで処分するか。父自身ある程度準備はするので、後は好きにすればいいと言うが、考えるだけで頭が痛くなる。

自分と父だけだとおつくうだが、中学生の娘も巻き込んで3世代で話したら聞きたやすそうだ。この機会に色々なことを聞きながら準備を進めよう。(小野仁)

くらし 家庭

文字が大きくて読みやすい!

ご注文は フリーFAX: 0120 (39) 1656

2025年6月24日刊行

番線印		入	∞ あさ出版	伊藤勝彦 著	本体 1700円+税
注文書		売		モメない相続でお金も心もすっきり! 親子終活	
ご担当	様	在庫		ISBN 978-4-86667-755-2	

*ご注文数は調整させていただくことがあります。ご了承ください。